

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1891700120		
法人名	社会福祉法人 坂井来春会		
事業所名	グループホームゆり		
所在地	福井県坂井市春江町本堂27-1		
自己評価作成日	令和 元年 11月 11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 元年 11月 27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の利用者様の意志を尊重している。</li> <li>・個々の生活パターンに沿って安全に生活できるように支援している。</li> <li>・家人からの要望に応えられるように職員全員で検討している。</li> <li>・利用者と寄り添い、ゆっくりとした生活を提供している。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、えちぜん鉄道西春江駅から徒歩3分と交通アクセスのよい場所に位置し、鉄筋・鉄骨造り4階建て施設の4階部分にある。窓からは、季節の変化を感じさせる田んぼが見渡せ、夏や秋には各地で開催される花火を楽しむ事が出来る。また、同じフロアの地域包括支援センターと連携を図り、敷地内の子育て支援事業所と交流するなど、利用者の生活を豊かにしている。</p> <p>事業所での生活が長くなることによるADL低下を予防する為に、管理者や主任を中心に利用者それぞれの状態に合わせたきめ細かな対応と、重度化してもできる限り事業所で生活できるよう職員を配置することで、利用者の安心した生活につなげている。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念を基に毎年職員で目標を決め、グループホームで利用者と共有できるように毎朝確認し、実践している。	管理者と職員は事業所理念の「笑顔で、やさしく、おもいやり」に基づき、利用者を家族と捉え、その人らしい生活の実現に向けて日々支援に努めている。管理者は、年2回職員と話し合う機会を設け、職員は常に振り返りを行い理念を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアの行事や施設行事、夏祭りなどに参加し、出来る限り外部の方々との交流を図っている。	春江町の文化祭など地域の行事参加時は、事業所の車で送迎するなど交流を支援している。生活の場が4階にあり、同フロアの小規模多機能型居宅介護事業所や、敷地内の別施設利用者と交流している。	生活の場が4階にあり地域との交流が図りにくい環境ではあるが、交流に努めることで、介護や認知症についての啓発に繋げ、地域の福祉の拠点となることが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症実践者講習に職員を参加させ、認知症の理解、支援の方法を実践中であり、今後は地域にも参加したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎日状況報告を行い、その都度、意見や要望があればその都度対応している。	偶数月の第3金曜日に開催し、地区代表や家族代表、広域連合職員、地域包括支援センター職員が参加し、事業報告など意見交換を行っている。家族へは請求書発送時に議事録を同封している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1回の運営推進会議で地域包括、広域の職員を交えて事業所の実情や取り組みを伝えている。	地域包括支援センター職員や広域連合職員とは、困難事例の相談や連絡ができる関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内部研修により身体拘束をしないケアを学び、理解し、身体拘束をしないケアを実践している。	母体法人が毎月開催する身体拘束委員会に各事業所の代表が参加し、内容を職員に伝達共有している。不適切な声掛けは職員同士で注意し合っている。日中、外出を希望する利用者へはフロア内の散策や、建物周辺の散歩などを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修で虐待防止について学ぶようにしている。普段から身体拘束や虐待はしないという意識を持つようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、外部研修に参加し、学ぶ機会をもち、活用できるように支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な説明を行い、改正時にはその都度説明し、了承していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見は随時伺って、なるべく希望に添えるように努力している。1階の受付にはご意見箱が設置されている。	家族との面会時は職員がお茶を出す等、意見を言いやすい環境をつくり、出された要望や意見は可能な限り運営に活かしている。3か月毎に事業所が発行する便りで、利用者の日々の写真を多く載せるとともに、事業所の要望や連絡事項を発信している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、業務会議を行い、職員の意見を取り入れて反映している。いつでも意見を言えるような関係作りにも努めている。	毎月業務会議を行い運営に関する意見を聞く機会を設けている。日頃から管理者や主任は職員が意見を言いやすい環境づくりに努め、提案された意見を運営に活かすことで職員のモチベーションのアップにつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	賞与前には1人1人査定を行い、反映している。その都度職員環境と条件の意見を聞き取りし、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、施設内の研修に参加させたり、必要に応じて初任者研修、認知症実践者研修に参加させてスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年、初任者研修、認知症実践者研修に参加させ、同業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望と情報を収集し、よりよい関係を作るため、管理者、職員と随時声掛けをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が契約時に家族に聞き取りを行い、要望を聞きながら不安の無い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者がサービスを導入する前に本人と家族がどのような支援を求めているかを聞き取りし、当事業所以外のサービスを含め支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者は介護者と介護される側という立場ではなく、家族のような関係作りを心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	可能な限り自宅に外出させたり、家族と利用者との関係を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去の利用者が大切にしてきた方との関係を維持するために間に入って外出や面会を支援している。	契約時のアセスメントで、本人や家族の思いを細かく聞き取り、お盆や法事等で帰宅する利用者を事業所の車で送迎し、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の特性などを把握し、孤立しないようにレクリエーションなどでよい関係作りができるように努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じてその後の経過を伺い、相談にのったり、他サービスを紹介したりと支援している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人1人の希望を聞き、その希望に沿えるように支援している。より良い施設生活が送れるように導いている。	職員は、日頃の関わりの中で本人の思いを把握するように努めている。会話が困難な利用者には表情などから思いを汲み取るとともに、入居時に作成したフェイスシートなどを参考に支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族への聞き取りや本人との関わり中で情報収集し、当事業所での生活に活かせる様に努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人、一日をどのように過ごしているかを把握することによって、利用者の心身状態を安定するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人、家族、担当者で話し合いの機会を設け、本人や家族の希望や改善点を話し合っている。	職員は利用者1~2名を担当し、利用者の生活歴や能力に加え、本人や家族の意向を取り入れた介護計画を作成している。3か月毎にモニタリングを行い、6か月毎のケア会議には家族も参加しケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、個別記録に日々の様子やケア記録を記入して、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お盆にはお墓参りに外出したり、結婚式への参列といった本人と家族のニーズに対応し、柔軟なサービスが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行き付けの美容院に行ったり、地域の祭りに参加するなど施設以外の楽しみや関わりを持てるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入居前からのかかりつけ医を継続しているが、専属医や往診対応などの説明も行っている。	基本は従来のかかりつけ医を継続するが、往診が可能な協力医に変更することもある。どちらの受診も管理者が同行し、適切な医療の管理ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者には小さな異変について看護師に報告し、処置や受診などの指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず付き添い、情報提供を行っている。本人や家族が安心して治療できるように主治医と話し合う時間を持っている。早期退院できるように入院中も家族との連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のあり方を家族と話し合い、終末期をどこで迎えるか確認している。看取りを希望された場合には主治医と連携を図り、最大限の支援をしている。	契約時に、重度化で医療的ケアが必要になった場合、病院へ移行する旨を説明し同意を得ている。重度化して事業所での生活が困難になっても、入浴など併設の他事業所の協力を得たり、人員配置を工夫し、住み慣れた事業所での生活を出来る限り支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人で定期的に研修や訓練を行っている。救命講習やAED講習に参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に災害訓練を行い、職員全員が災害に対する日頃の備えを意識づけている。地域を交えた訓練はこれからの課題である。	年2回の避難訓練を実施し、本年度は2回とも夜間想定で実施した。母体法人の自衛消防隊にも参加している。	訓練後の振り返りを行い、より実践的な内容とすることが望まれる。地域の集落とは離れているが、災害時は相互に支援が得られるよう運営推進会議で検討することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人を尊重した言葉使いや接し方を心がけている。プライバシーを配慮した対応ができるように全員が心がけている。	プライバシーや尊厳に関する研修に職員を派遣し、会議で話し合っている。利用者への言葉遣いなど、家庭的な関わりの中でも適切な声掛けとなるよう実践している。利用者の記録は適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を与えて自己決定ができるように促している。希望がかなえられるように本人を交えて働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本日の予定を決め、1人1人希望に応じた支援をしている。利用者自身がどのように過ごしていたか要望をたずね、希望に沿えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着たい洋服を選んでいただき、鏡の前で身だしなみを整えてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りおやつや手作り御膳を実施し、一緒に食事の準備をしたり、片付けをしたりしている。食べたい物を聞き取りし、季節を感じられる食事作りをしている。	献立は栄養部が用意するが、事前に連絡することで、利用者の好みに合わせることができる。週に1回程度は外食や出前を取ることがある。また、おやつを手作りすることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態を把握し、食事量、水分量をチェックしている。明らかに普段よりも少ない時は食べやすくなるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後実施している。拒否される方には、時間を見合わせたり、うがいで終了することもある。夕食後は義歯洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を声掛けしている。出来るだけトイレで排泄していただき、気持ちよく過ごせるように支援している。	排泄状況を記録し、適宜さりげなく声掛けし、利用者の身体状況に応じてトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、看護師と相談しながら、1人1人に応じた支援を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴する曜日はほぼ決まっているので、本人の希望を聞いて、午前か午後かご希望の時間帯で入浴できるようにしている。入浴拒否の方にも声掛けを工夫し、気持ちよく入浴できるように努力している。	基本、週2回の入浴としている。個浴でゆったりと入浴でき、利用者の能力に応じて支援している。重度化した利用者へは職員配置で補うとともに、系列の別事業所の機械浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人就寝時間は違うので、その人の習慣に応じて休んでいただいている。安心できる環境で気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員と連携し、状況の変化に対応している。服薬時には飲み込みを確認し、飲み忘れがないように注意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の会話から嗜好を調査し、得意なことや好きなことをして生活していただけるように支援している。楽しみの機械を作れるように工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と協力しながら本人の希望している所に外出できるよう支援している。お盆にはお墓参りに出掛けたり、結婚式に参列したりと希望に沿えるように努力している。	季節行事や、毎月の外食などで外出の機会を設けている。また、敷地内の子育て支援室を訪問したり、外のプランターで野菜の収穫をするなど事業所内に閉じこもらないよう配慮している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時にお金を使用し、嗜好品を購入したり、買い物をしたりしている。家族にも説明し、理解していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望がある方はその都度対応し、手紙のやり取りも自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや浴室はわかりやすいように表示していて、混乱しないように工夫している。季節によって花を飾り、四季を感じられるようにしている。居心地よく過ごせる温かい空間作りをしている。	共有空間は明るく、壁面は季節を感じさせる利用者の作品で飾られている。ソファ横には目隠し用のパーテーションが設置され利用者同士がゆったり話せるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったりとしたソファがあるので、気の合う方とおしゃべりを楽しんだりできるような空間作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染みの家具などを持ってきていただいたり、写真などを部屋に自由に飾ったりと居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は、明るくて風通しが良く居心地が良い造りとなっている。テレビや写真、衣服など利用者の好みのものが持ち込める。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の妨げになる様な物品は出来る限り排除し、安全な環境作りと環境整備に努めている。歯磨きセットや洗剤の置き場も検討し、安全な環境作りを努めている。		